

硫酸を用いた飼料イネ栽培向けの簡易な流入施肥法

研究のねらい

飼料イネの追肥作業で流入施肥を行う場合、低コスト化のため、安価な硫酸等の単肥を利用したい。また、地耐力維持で浅水管理したいため、液肥の流入施肥のように多量の用水を必要としない施肥法が望ましい。これらの条件をふまえて、飼料イネ栽培に適した硫酸の簡易追肥法を開発する。

成果の内容

- ①コンバイン収穫用粉袋（ポリプロピレン製、標準容量30kg。以下、粉袋）を利用した飼料イネ栽培向けの流入施肥の方法を図1に示す。
- ②この方法により、流入施肥器で液肥を施肥したように、濃度変動が少ない硫酸の溶けた用水を供給できる（図2）。
- ③コンテナの水深を変えることによって硫酸の溶解速度が変わり、用水量を調節できる。
- ④落水状態の圃場にこの方法で流入施肥すると、施肥ムラの少ない追肥ができる。入水後の水深が5cm程度でも、均一な施肥が可能である。



図1 コンバイン収穫用粉袋を用いた施肥法

<作業手順>

- ①コンバイン収穫用粉袋（ポリプロピレン製、標準容量30kg）を3重にして粒状硫酸を投入し、コンテナに入れ、水口に配置する。袋には硫酸が最大55kg入り、袋中に米袋スタンドを入れ、コンテナ下にブロックを敷くと安定する。
- ②波板で囲い、流路（2m程度）を設定する。
- ③落水状態から入水し、コンテナ水深を6cm前後に調整する（コンテナの底に板を挟む等）。
- ④肥料が少量（2kg程度）になると溶けにくくなる。中から袋を出すか、残量は誤差として次の圃場で追肥作業するようにする。

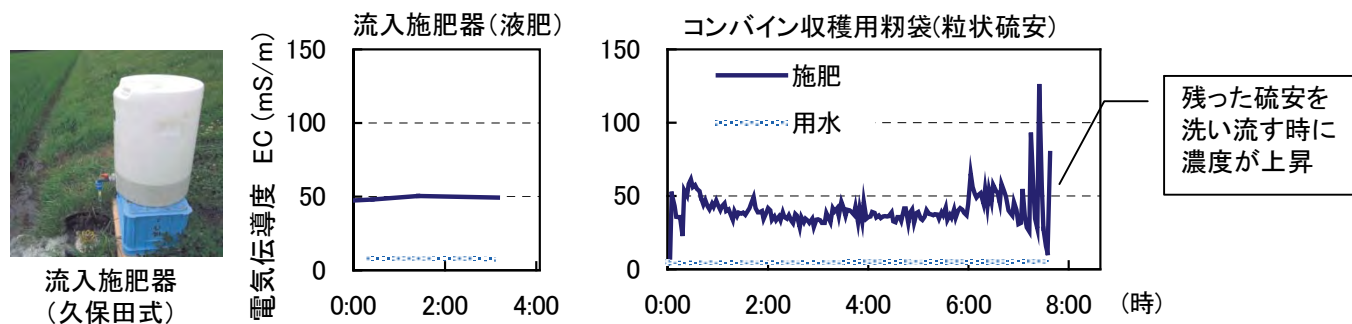


図2 流入施肥器および粉袋による流入施肥における取水口のEC（電気伝導度）の推移